

# もっと、ずっといい日

隔月刊「もっと、ずっといい日」  
発行 / 2019.11.25  
株式会社MOZU 東京都新宿区西新宿3-17-7  
Tel / 03-5755-3150  
企画・編集 / スタッフHMNS  
無断禁転載・非売品(会員誌)

【監修】



一般社団法人  
**温熱療法協会**  
Hyperthermia Association

## 米国の統合医療に「鍼(はり)治療」の市民権を 確立させた医師が追い求める「理想の医療」

西洋医学の視点で鍼治療の  
作用機序を解明

「よく日本に戻ってきてくれましたね」

「いえ、そんな…」

この会話は、先生が米国での大学教授生活に区切りをつけ日本に帰国したことに、安堵(あんど)にも似た筆者の気持ちを率直に表した言葉です。

近年、優秀な人材が海外に渡りその国に定住する、いわゆる「頭脳流出」が話題になっています。日本にとつて大きな損失です。

そんな思いが思わず過(よ)ぎるほど、先生は輝かしい業績と経歴を持つドクターです。「大学を出て10年ほど消化器外科医をやってきました。その間、鍼治療を習得しそれを慢



### 高橋 徳

たかはし とく

威斯コンシン医科大学名誉教授。統合医療クリニック徳院長。関西の病院で消化器外科を専攻した後、渡米。ミシガン大学助手、デューク大学教授、威斯コンシン医科大学教授を経て、現在威斯コンシン医科大学名誉教授。2016年名古屋に『統合医療クリニック徳』をオープン。主な研究テーマは『統合医療』と『オキシトシンの生理作用』。著書『人は愛することで健康になれる』『あなたを選ぶ統合医療』『オキシトシン健康法』など。

性疼痛の患者の治療に応用してきました」

その後、勉学の目的で渡米しています。27年前のことです。西洋医学の在り様に疑問や限界を感じての渡米だったようです。例えば、がん治療の現状。「手術をし、抗がん剤を投与する。いわゆるそのゴールドスタンダードを

信じていましたが、抗がん剤を投与しても副作用ばかりで全然効かない。西洋医学はこれでいいのかと思いました。米国に行つて医学の勉強をもう一度やり直そうと思いついて…」

米国の大学では、主に鍼治療を教えるながら膨大な臨床実績を重ねたに違いありません。

せん。ちなみに鍼治療は中医学に古くからある医療分野です。

しかし、「鍼はよく効くのですが、なぜ効くのかいろいろ調べても納得がいく理論がない」分野でもありました。それに問題を感じたのでしよう。

「なぜ鍼が効くのか。どんなメカニズムで効くのか。西洋医学的なアプローチでしらみつぶしに徹底的に調べました」作用機序の解明研究に10年の歳月が掛かったといえます。その研究をまとめた論文が医学界で認められ、その後米国で鍼治療ブームが起きています。

先生は謙遜しますが、その優れた功績が「火付け役」になったに相違ありません。後年、米国で生まれ世界に定着した「統合医療」という新しい医療概念の分野に、「鍼治療」という分野の市民権が確立できたのも、先生の論文が多大な影響を及ぼしたことは容易に想像できることです。

理想の医療を求めて  
心と体の同時ケア

現在、先生は名古屋に『クリニック徳』を開所し、「心と

拠点に米国で研鑽した20余年にわたる最先端の研究の末に行き着いた「理想の医療」とする統合医療を広めています。

「人は愛することで健康になれる」。

これは先生が著した書籍名です。この書題に先生の医療と向きあう姿勢や人柄、あるいは医療人としての哲学や唱える統合医療の精神が表れているように思われます。

それは「心と体の両面から同時にケアする」医療を意味しているものと考えられます。その医療概念を支えている物質が、同書の副題にある「愛のホルモン」オキシトシン、いわゆる視床下部から放出されるホルモンだということです。紙幅の関係で詳細は書けないのが歯痒い限りですが、物書きを生業とする筆者としては、一冊の本にできるほど実に奥深く興味深い視点です。

遠赤外線温熱ドーム『日だまり』は先生の医院に導入されています。「心と一緒に働いている皮膚科の先生が、東京でたまたまその製品を知り使つてとてもいいので、それならどこでも

と悪い……」

それが導入の動機で、もう半年以上前から「活躍」しています。先生によれば「鍼治療をした部位に被(かぶ)せておくと、鍼と温熱の血流促進効果との相乗効果があり評判はいい」と評価してくれました。単に温熱効果だけではなく「体に良い親和性のある特別な波長も関係してくれているのかもしれない」と、先生はその未知なる機序の作用の可能性も示唆してくれました。

### 誰でもわかる薬機法入門講座⑦

#### 知らないではすまされない関連法規 ～法令遵守精神で正しい製品普及を～

医療機器の種類はその使用目的から大きく分けると治療機器群と診断機器群、分析機器群などに分類されることは前号でふれましたが、診断機器群には本来の生理検査機器群のほかに、生体情報モニターなどのモニター機器群なども含まれます。

これ以外にも、設備機器類や衛生用品、家庭用医療機器、また従来からの心電図などの医療機器と呼ばれるものなどもあります。

MOZUの製品の多くは、医療機器ではありませんが、管理医療機器「遠赤外線温熱治療ドームレインボー」が医療機器認証を取得していることから、前号と今号では法律が定める医療機器にはどのようなものがあるのかを学んできました。

これまで薬機法(薬事法)とはどのような法律なのか。「遠赤王」シリーズの製品は、それを用いることで期待される作用が医療用機

器の分野と比較的近似している点もあることから、医療機器とはどのようなものかを見てきました。「遠赤外線温熱治療ドームレインボー」をお使いになっている方以外は、あまり関心がないように思われるかもしれませんが、しかし薬機法は体の健康に関わる点が多い法律であることから消費者にとって、実はとても身近で関心の高い法律なのです。